

# 金沢大学附属高校の取り組み



6.28WWL合同連絡協議会

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校

主幹教諭・研究企画部主任 塚田 章裕

# 金沢大学附属高校を拠点校とするWWL構想 金沢大学附属高等学校 Kanazawa University Senior High School

石川県・富山県・福井県の3県にまたがる **北陸圏域の高等学校**、**海外の高等学校**、**関連する機関**により「**北陸ALネットワーク**」を形成し、**組織的・継続的に**  
“**持続可能な世界を実現し、Society5.0を牽引するグローバル・リーダー**”を育成

拠点校において実施してきたSGH事業の課題探究型課程編成をベースに、  
**国内外の連携校の多様な視点を取り入れた学習** と **新たな科目の開講**、  
**先進的技術を有する連携機関による専門的視点からの指導等**を取り入れ、  
**教育カリキュラムを一層深化**

高校生の段階から金沢大学が有する海外ネットワーク等も活用した**国際性**と  
**アドバンスト・プレイスメント**による**高い知識を身に付けさせる取り組み**を加え、  
**社会が抱える複雑な課題に立ち向かう“新たなグローバル・リーダー”育成モデル**を  
**確立し、広く全国へと発信**

**人類の一員として自己の使命を認識した上で、国際社会で積極的にその使命を果たし、  
知識基盤社会の中核的なリーダーとなって  
常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける能力・人間力を備えた人材を養成**

醸成する  
資質・能力

1. 自己の立ち位置を知る
2. 自己を知り、自己を鍛える
3. 考え、価値観を表現する
4. 世界とつながる
5. 未来の課題に取り組む

《 3つのアライアンスの確立 》

1. 北陸圏域内の高校
2. 海外の高校
3. 社会(企業等)

《 高大接続改革によるアドバンスト・プレイスメントの拡充 》  
“高度な学びの提供”とアドバンスト・ラーニングの促進

SGU事業に  
採択中の  
金沢大学が  
管理機関  
だから  
実現可能な  
相乗的推進

# 持続可能な世界を実現し、Society5.0を牽引するグローバル・リーダーの育成

人類の一員として自己の使命を認識した上で、国際社会で積極的にその使命を果たし、知識基盤社会の中核的なリーダーとなって常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける能力・人間力を備えた人材を養成



醸成する  
資質・能力

1. 自己の立ち位置を知る
2. 自己を知り、自己を鍛える
3. 考え、価値観を表現する
4. 世界とつながる
5. 未来の課題に取り組む

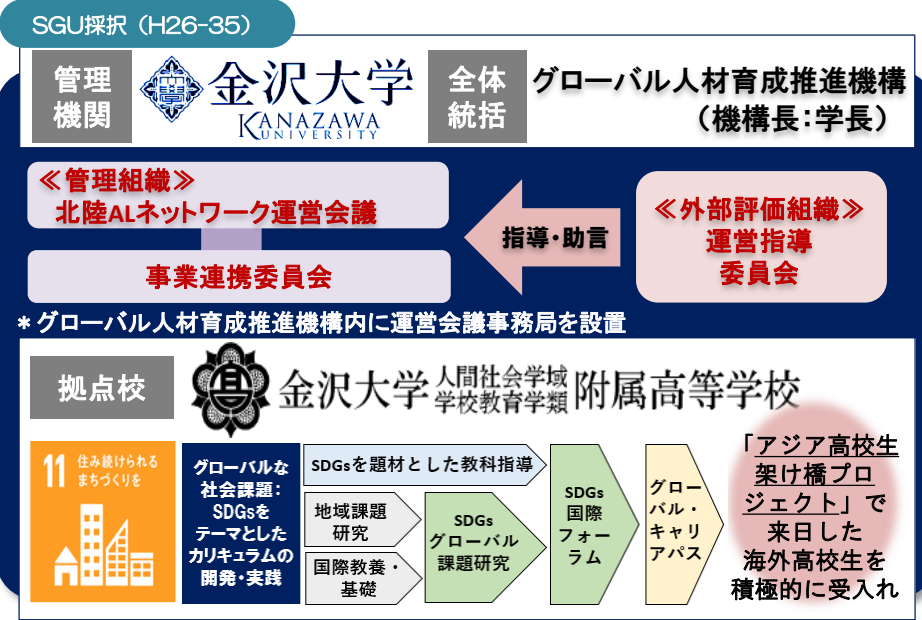
◀ 3つのアライアンスの確立 ▶  
 1. 北陸圏域内の高校 2. 海外の高校 3. 社会(企業等)

◀ 高大接続改革によるアドバンス・プレースメントの拡充 ▶  
 “高度な学びの提供”とアドバンス・ラーニングの促進

SGU事業に  
採択中の  
金沢大学が  
管理機関だから  
実現可能な  
相乗的推進

## 2. 海外の高校とのアライアンス確立

- ・SDGsをテーマとした共同学習を実施(Skype等活用+現地実習)
- ・SDGs国際会議を開催
- ◀ 事業連携校 (海外) ▶
- ・台湾師範大学附属高級中学 (台湾)
- ・シンガポール経営学院インターナショナルアカデミー (シンガポール)
- ・マヒドン高等学校 (タイ)
- ・キングモンクット工科大学 トンブリ校附属高等学校 (タイ)
- ・上海七宝中学 (中国)



## 3. 社会(企業等)とのアライアンス確立

- ・SDGsをテーマとした社会と直結する学習に対して、継続的な人的支援(高校生への指導・助言・評価等)と、財政支援(外部資金の獲得)
- ◀ 協働機関 ▶
- ・国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット
- ・ユネスコ・アジア文化センター
- ・JICA北陸 ・金沢青年会議所
- ・日本政策金融公庫 ・北陸財務局

**金沢大学基金**  
 附属高校グローバルリーダー育成基金  
 (H30~受入開始)

金沢大学のバックアップのもと、支援終了後の事業継続に向けた新たな企業ファンドを設立

既に北陸圏域の多数の企業等から人的支援・財政的支援の協力の申し出

## 1. 北陸圏域内の高校とのアライアンス確立

- ・ 金沢大学が主催するAPプログラムへの参画(金沢大学単位認定含む。)
- ・ SDGsフォーラム等で探究学習の成果を発表
- ・ 各アライアンス校が有する教育実績と国内外のネットワークを相乗的に活用

- ◀ 事業連携校 ▶ 石川県教育委員会、富山県教育委員会、福井県教育庁と協力
- ・ 石川県立金沢泉丘高等学校
  - ・ 石川県立金沢二水高等学校
  - ・ 石川県立小松高等学校
  - ・ 石川県立七尾高等学校
  - ・ 富山県立高岡高等学校
  - ・ 福井県立高志高等学校

SDGsを題材とした教育の中で高校・大学教員が協働して、情報教育(データサイエンス)に関する新たな科目を開講



金沢大学が開講する“高度な学び”をより多くの高校生へ!



グローバル・リーダーの育成に向け、従前の取り組みやその成果を基に、2015年9月の国連サミットにおいて採択された「**持続可能な開発のための2030アジェンダ (SDGs)**」で掲げる「**目標11 包括的で安全かつ強靱 (レジリエント) で持続可能な都市及び人間居住を実現する (住み続けられるまちづくりを)**」をテーマとし、「**新たな教育の在り方**」を体現するカリキュラム開発・運用。

各連携校におけるこれまでの教育活動の特色や地域特性を最大限活用でき、文化や伝統、経済状況等、**居住環境や都市形成の相違**を高校生自らが分析し、**豊かな未来の人間居住を提案**することを想定。

例えば “交通、経済、人口動態の相関による都市形成ソフトウェアの提案”  
“地域資源や医療等のサービスを核としたまちづくりの提案” 等

## 《教育のアプローチ》

- ① 生徒の関心が高い**身近な地域の課題の発見・解決** 1年生「地域課題研究」
- ② 視点を広げ、**持続可能社会の構築に向けた世界的課題の発見・解決** 2年生「グローバル課題研究」

## 《ねらい》

- ◎ 地域課題と世界的課題との共通点や相違点、課題解決に必要な知見や方法論の学び
- ◎ その上で、今後、様々な場面で直面する正解のない課題に立ち向かうことを見据え、**生徒自身が自らどのような将来像を描くかを改めて考えさせる** 3年生「グローバル・キャリアパス」

**「地域」→「グローバル」→「自己」**



# 関係機関による先進的なカリキュラムの 研究開発・実施体制



SGH事業から引き続き実施する各課題研究等について、連携機関の協力を得て実施。その体制を堅持しつつ、本構想に関連する連携校等の取組みにも反映

**「地域課題研究」** 金沢大学，北陸財務局，日本政策金融公庫，金沢青年会議所等  
連携機関が参画

生徒の構想をより現実的・具体的なものとするための助言

**「グローバル課題研究」** アジアユネスコ文化センター（ACCU）等が参画

SDGs課題研究の生徒向け研修会，教員向け研修会等の実施により，高校生の研究活動をサポート

海外の連携校であるシンガポール経営学院インターナショナルアカデミー（SIM）等が参画

2年生全員がシンガポール・マレーシアを訪問し、SIMと共同研究を実施

**「課題研究発表会」** 連携校である金沢泉丘高等学校，金沢二水高等学校と3校合同で開催

**「北信越フォーラム」** さらに枠組みを北信越地区全域に広げ，連携校である小松高等学校，七尾高等学校，高岡高等学校，高志高等学校等も含めたフォーラムを開催

# 文理融合された「グローバル探求」等の 新たな教科・科目の設定



SGH事業の実施の結果、生徒の自主的な活動力が向上。

海外に目を向けるグローバルな活動が活発化し、海外へ留学する生徒が増加するなど、「地球サイズの教育」を体現する成果が上がっている。

その一方で、1年生における海外交流については、有効な交流が難しいという課題も存在。

SGU事業において徹底した国際化を進めている管理機関である金沢大学の人的リソースを活用し、高校1年生から国際的な素養を育て、有効な海外交流につなげるために拠点校をモデルとした**新たな教科「国際教養 基礎」（1年1単位）**を設定。

「国際教養 基礎」による理論と「地域課題研究」「グローバル課題研究」による実践の融合を具現化。

これらの学びを促進するために、拠点校教員と連携校の教員を中心に「国際教育研究会」を立ち上げ、ネットワークを構築。

# 大学教育の先取り履修の実施体制



アドバンスト・プレースメント（AP）プログラムを、高等教育機関が大学レベルの高度な学びを高校生に提供する教育プログラムと位置付け、高校生の高度な学びのための事業を展開。

金沢大学の教員の厳格な指導・評価を取り入れることによって単位認定する仕組みを構築。

- ・ 数学を用いて現実の世界的課題解決能力を醸成する「日本数学A-lympiad」
- ・ 個に応じた科学に係る才能を育成する「グローバルサイエンスキャンパス」等

## より高度な内容を学習できる環境整備

「Society5.0時代に向けた人材育成～社会が変わる、学びが変わる～」(平成30年6月 Society 5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会 新たな時代を豊かに生きる力の育成に関する文部科学省内タスクフォース)においても明記されており、ビックデータを活用した教育の質の向上は不可欠。

そのため、金沢大学の人的リソースを活用し、連携機関とも協働した新たな科目「数理統計サイエンスプログラム」（3年1単位）を開設して高度な学びを提供。



# 留学・海外研修等の体系的な位置づけ

拠点校，連携校において，短期・長期留学や海外研修を各カリキュラムに位置づけており，計画的に海外研修等を実施。

例えば，拠点校においては，これまで，生徒全員を対象に，平成21年から平成30年まで9年間台湾での海外研修を行ってきたが，平成30年度入学生からは，2年次の1月にシンガポール・マレーシアに海外研修の場所を変更し，連携校であるシンガポール経営学院インターナショナルアカデミー（SIM）での現地学習を行うことをカリキュラム上で位置付けている。

シンガポールの高校生と協働し，課題のマッチング，Skypeによる交流等，海外に行く前からSDGs課題研究に取り組み，交流・発表を行うプログラムを進める。

## 生徒が留学生と一緒に英語等で授業・探究活動等を履修するための学校体制

本校からの海外留学経験を有する生徒を中心に，高校教員，金沢大学職員が留学生のホームステイの受け入れ，学習サポート，生活サポートを実施。

拠点校においては，「アジア高校生架け橋プロジェクト」における留学生を令和元年から受け入れる。



# 各教科バランスよく学ぶ教育課程の編成

拠点校において、先導的な教育モデルとなるべく、**文系・理系を問わず、幅広く様々な教科を履修できるような教育課程の編成**

1年次 **文系・理系の垣根を設けず** 文系・理系がバランスよく学べる環境を整備

2年次以降 文系・理系のカリキュラムを設定しているものの、**生活クラスは文系カリキュラム選択者と理系カリキュラム選択者が同じクラスに混合**

文理分断とならないよう、**数学・理科・地歴・公民科等の科目は文系・理系のカリキュラムを問わず選択して学習できる教育課程を編成**

実際に **文系でも9割以上の生徒が数学・理科を履修**  
**理系でも9割以上の生徒が地歴公民を履修**

## 国内外の高等学校との連携した高校生国際会議等の開催

SDGsのうち、特に「**目標11 包括的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する（住み続けられるまちづくりを）**」を設定

各連携校と目標を共有した上で  
課題研究を進め、

**3年後に全ての連携校が参加する  
高校生国際会議を開催**

目標  
11

包括的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市  
及び人間居住を実現する



- 高齢者等のニーズに配慮した交通安全性の改善
- 包括的かつ持続可能な都市化を促進
- 世界の文化遺産・自然遺産の保護
- 環境上の悪影響を軽減
- 資源効率、気候変動の緩和と適応
- 災害に対する強靱さ

# 今後の課題



- ・連携校との具体的な研究課題の設定や持続的・効果的な教育展開の方法
- ・国際会議の運営手法
- ・APの実施等に係る管理機関との具体的な役割分担 など

本事業に採択された他機関の取組も参考にしつつ、連携校、協働機関と協議しながら、持続的・効果的な教育方法を模索